

サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門

結果報告書

タイトル	和道～癒しとともに～	
代表者	学部・学年	氏名
	経営学部 3年次生	松田綾美
企画概要	ワークショップによる行灯づくりを通し、地域の人が集まり、コミュニケーションを行うことができる場を提供する。近年では昔と比べると地域の結びつきが弱くなっている。結びつきの弱さから発生する高齢者の孤独死、自殺は現代の大きな問題である。そのような状況の中で、地域の人が今まで関わりの無かった人と出会い、イベント後もつながりを持てるようになる事を目的として事業を行う。	
結果報告	10月26日に行われたサタデージャンボリーにて行灯のワークショップを行った。当初は、外部施設でのワークショップを計画していたが、まずは学内で経験を積みたいという想いと、学内から発信していくことの重要性を発見したいという想いで参加を決めた。準備や計画など、グループで進めていくのは難しかったが、様々な方のご協力もあり、当日を迎えることができた。当日は時間どおりに事が進まなかったり、人によって作る時間が違ったりと、実際にイベントをしないとわからない難しさもあったが、楽しくイベントを終えることができた。この経験をもとに3月6日に行われた新道児童館での行燈造りイベントは、午前、午後の部に分けて開催して、総勢で54名の児童に参加していただいた。前回のイベントでの反省点として行燈の強度についての問題があったが、組み立てをフォローし、新たに道具を加えたことで、その問題は解消された。一人ひとりがオリジナリティあふれる行燈を作成され、作成した行燈は一定期間児童館に飾らせていただけることとなった。今回、新たに企画を構成し、実行していく中で、多くの問題と直面した。この経験を糧に、これからの活動にいかしていきたい。	

感想	<p>最初に計画していたものと、実際行ったものでは大きく変わったものになった。まず、ワークショップという面では、しおりや石ころアート、ブローチ作りなど様々なものを行うというアイデアもあった。しかし、話し合いを行う中で、行灯1つに絞ることで、より質の高いワークショップを行うことができた。「行灯」という点で周りからの反応も良く、京都らしさも生まれたので、その点では良かった。</p> <p>人と人がつながる場を提供するという当初の目的からは少し離れてしまったが、サタデージャンボリーでは、子供たちにもものづくりの楽しさを伝えることができたのではないかと思う。これまでの活動で、一つの事業を計画し、実行していくことの大変さを感じた。</p> <p>このサタデージャンボリーでの経験があったからこそ、今後につなげていきたいという気持ちが生まれ、ずっと続いていけるようなイベントづくりへの第一歩となった。まだイベントが残っているので続けて頑張っていきたい。</p>
----	--